



### 朝倉文夫記念館

緑豊かな自然の中にひっそりとたたずむ朝倉文夫記念館。館内には「墓守」や「時の流れ」など、貴重な作品が展示されています。

学生時代から晩年までの、文夫の彫刻作品の鑑賞を主体として、ゆかりの品々の展示やビデオ上映を通じ、文夫の芸術を総合的に理解できるように構成されています。

#### ◆ 入館料

- 一般 500円
- 小中高生 200円
- 団体(20人以上)2割引

◆ 開館時間 9時～17時  
(入館は16時30分まで)

#### ◆ 休館日

月曜日(月曜が祝祭日の場合は翌日)

#### 記念館・文化ホール設計

東京芸術大学名誉教授 清家 清

#### 造園設計

彫刻家(日本芸術院会員) 澄川 喜一

#### 館内展示設計

舞台美術家 朝倉 摂

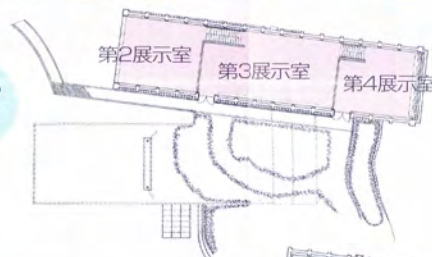


やすらぎの空間、  
朝倉文夫の世界へようこそ



野外彫刻として展示される入賞作品

2F



1F



朝倉文夫

近代日本彫塑の基礎を築いた豊後大野市朝地町出身の彫刻家。「自然主義的写実主義」を貫き、生涯で数多くの作品を残した。また、東京美術学校や「朝倉彫塑塾」で後進の育成にも努めた。

#### 朝倉文夫の略歴

- 1883年 3月1日、大分県豊後大野市朝地町に生まれる
- 1907年 東京美術学校(現東京芸術大学)彫刻選科卒業、卒業制作「進化」  
谷中天王寺町にアトリエ新築  
彫刻を志す若者が集まり、のちに朝倉彫塑塾となる
- 1908年 第二回文展「闘」二等賞(最高賞)
- 1909年 東京美術学校研究科修了  
第三回文展「山から来た男」三等賞
- 1910年 第四回文展「墓守」二等賞
- 1911年 シンガポール、ブルネイ、その他、南洋を視察  
第五回文展「土人の顔、其の二」三等賞
- 1912年 第六回文展「若き日の影」三等賞
- 1913年 第七回文展「含羞」二等賞
- 1914年 第八回文展「いづみ」二等賞
- 1916年 文展審査員に任命される
- 1919年 帝展審査員に任命される
- 1921年 東京美術学校教授に任ぜられる
- 1927年 第一回朝倉彫塑塾展覧会(東京都美術館)
- 1934年 「彫塑餘滴」を出版
- 1942年 「衣食住」「民族の美」「美の成果」を出版
- 1943年 「航南瑣話」を出版
- 1948年 第六回文化勲章授与(大分県1号)
- 1958年 日展顧問となる
- 1964年 4月、急性骨髄性白血病にて死去



「時の流れ」1917

## 大分アジア彫刻展

OITA ASIAN SCULPTURE EXHIBITION

### アジアの彫刻界に新しい風を

大分県と朝地町(現:豊後大野市)が1992年から開催しているアジアの新進彫刻家のための公募展。公園内は豊かな自然とアジアの現代彫刻が調和した芸術鑑賞空間となっています。